

# 神戸港

## 神戸市港湾局

〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-1-1

ポートアイランドビル

☎078-595-6263

URL : <https://www.city.kobe.lg.jp/z/kowankyoku/kurashi/access/harbor/index.html>



## 1. 概況

神戸港の歴史は古く、史上に名が現れるのは応神天皇の御代(4世紀)、神功皇后の「務古水門に環り……」(日本書紀)に始まります。この頃から朝鮮、中国などとの交易の門戸となっていたことがうかがえます。平清盛の時代には宋、足利時代には明との貿易港として「大輪田の泊」、「兵庫の津」などと呼ばれて大いに繁栄していました。慶応3年12月7日(1868年1月1日)に神戸港は開港し、開港当時は外国貿易港としての施設はわずかに第1~4波止場と運上所(後の税関)、倉庫3棟を数えるにすぎませんでした。しかしその後、明治6年には税関もでき、以降次第に施設を整えていきました。

明治40年から第1期修築工事に着手、続いて大正8年には第2期修築追加工事と次々に大規模な港湾施設の建設が行われ、新港第1~6突堤、兵庫第1、第2突堤、中突堤をはじめ、防波堤、物揚場、上屋等が建設されました。第2次世界大戦では、神戸港は大きな被害を受け、また主要施設が接収されるなど港湾機能は一時麻痺しましたが、昭和25年に制定された港湾法により、翌年の4月には神戸市が神戸港の港湾管理者になるとともに、他の港湾に先がけて積極的に復旧にあたりました。

神戸港の入港船舶数は年々著しく増加し、これに対処するため、新港第7、第8突堤、長田港、兵庫第3突堤、摩耶埠頭などの施設を次々に建設していき、日に日に港勢を拡大していきました。

そして、海上輸送の革命ともいえる「コンテナ時代」の到来を先取りするため、神戸港では摩耶埠頭第4突堤にわが国最初のコンテナターミナルを整備しました。そして、より本格的なコンテナ専用埠頭を確保するため、人工島「ポートアイランド」が昭和56年に完成、さらにポートアイランドの東側には第2の人工島「六甲アイランド」が平成4年に完成しました。また、新たな時代のニーズに対応した港湾施設の形成を図るため、ポートアイランドの南側にポートアイランド(第2期)が平成22年に完成しました。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、神戸港は大きな被害を受け、神戸港の機能停止は、市民経済、市民生活、国内外の物流・産業活動に莫大な影響を与えましたが、国・建設業界のご支援・ご協力もあり、わずか2年で港湾機能が復旧したものの、しばらく厳しい港勢状況が続きました。その後、平成22年の国際コンテナ戦略港湾の選定を契機に、また、官民一丸となった取組の結果、港勢回復に至りました。

神戸港は、国際コンテナ戦略港湾として、また、主に西日本の経済・産業を支えるゲートポートとして、瀬戸内・九州方面からの「集貨」、コンテナ貨物の需要の創出に資する「創貨」、高規格コンテナターミナルの機能強化などの「競争力強化」の取組みを進めています。

平成30年時点において、神戸港には、国際定期航路が78航路・週320便、内航フィーダーは週95便が就航しており、平成30年のコンテナ貨物取扱個数は過去最高となる294万TEUとなりました。引き続き、西日本諸港からの集貨や、東南アジア-北米間等のトランシップ貨物の取組みを進めていきます。また、国土交通省ならびに阪神高速道路株式会社が整備を進める大阪湾岸道路西伸部が完成すれば神戸港へのアクセスが向上することから、物流の効率化による更なる港勢拡大が期待されます。

今後は、官民一体となった、「アジア広域集貨プロジェクトチーム」の取組みにおいて、神戸港を活用した物流改善事業に取り組んでいくとともに、神戸港が東南アジアの港湾を中心に12の港湾管理者と締結した連携協定(MOU)や、ポートオーソリテイズ・ラウンドテーブル(PAR)などの国際会議で培った海外諸港とのネットワークなども活かし、広域からの集貨に取り組んでいきます。

港湾を取り巻く社会経済情勢について、今後も大きな変動が予測される中、神戸港では、平成29年の開港150年を契機に、概ね30年先を見据えた神戸港が目指すべき戦略的な将来像である「神戸港将来構想」を策定しました。

この構想では、大きく2つの分野でプロジェクトが掲げられており、「港湾・産業」の分野では、ASEAN・インドの経済成長に伴う国際物流重心の南下を見据え、アジア-北米間の貨物を取り込むため、最先端の流通・加工・製造機能が一体化したロジスティクスターミナルの形成による、高付加価値型の神戸港のトランシップ拠点化を目指すこととなっています。

もう一つの「にぎわい・都市」の分野では、上質で品格のある神戸のまちの雰囲気を活かして、ウォーターフロントエリアを歴史・文化と新たな魅力が共存・融合するテーマ性を持った空間として、都心・三宮地域と一体的に再開発を推進することにより、市民や観光客など訪れる人に価値ある時間を提供することを目指します。

神戸港が持続的に成長し、世界の中で輝き続けられるよう、この将来構想で掲げられた将来像の実現に向けて、神戸港に携わるすべての方々とともに取組みを進めていきます。